
二択

amanojyaku

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二択

【Zマーク】

N6312C

【作者名】

amanojiyaku

【あらすじ】

俺の日常の一部。宏美の言葉は本当なのかもしれない。

行くか、行かないか。

帰るか、帰らないか。

俺はあと1時間59分以内に決断しなければならない。

ああ、俺ってこんなに優柔不斷だつたつけなあ。

とりあえず、何もしなければ、俺は行く、帰らない、ことになる。
うん、そうだ。

もし何か行動すれば、俺は、行かない、帰ることになる。

俺はベッドに倒れこんでみた。が、何も変わらない。

あー、どうしよう。

俺はいつも時間が大嫌いだ。

そのクセ、いつも時間を過ぎじたのが何のはなぜだ??

宏美の言葉を思い出す。

「マサは恐竜なのよ

意味分からんねえぞ?

「は?」

「恐竜つて足を踏まれてから、しづらへしないと痛みが分からない
でしょ。ほんとマサそっくつ

ちよつと待て。俺は今まで鈍感ではないぞ?

「それはちよつと違う感じやね?」

「違わないわよ。マサって物事を判断する時、ちやんと考へてるよ
うで考えてなこのよ、自分のこと、これからのこと。こつも結果論
だけで判断する。いつもながら、いつもより、とか、いつもじゃなか

つたり、じりじりしてみよ。とか、そういうのを全く考えなこじやない

い

「そんなこと、いちいち考えてたら日が暮れちゃうよ」

「そんなことない。私はいつも考へてるわよ」

そりやあお前は賢いからな。俺はお前みたいに計算高くないんだ。

「計算高くなれとかそういうことをいつてるんじやないの。後悔する
べうになら、もつとひきやんと考へてから行動しなさい」と

なんだこいつ。俺の心の声が聞こえるのか。女って口うる。

「わかったよ。じ忠告あつがとう」
「どういたしまして」

もしかすると、宏美の言っていたことは正しいのかもしれない。

ともすると・・・俺は恐竜！？

いや、そういうことじやないよな。

恐竜みたってことだ、うん。

時計を一瞥する。

2時23分。

しばりくすると俺は深い眠りに落ちていた。

夢の中で、俺は昔の友人、潤一と電話をしていた。

寝ぼけ眼で時計を見る。

4時44分。

ああ、終わってしまった。

俺は行く、帰らない、という決断をした。

というよりも、そうせざるをえない状況になつたからそうした。
あれ、これも宏美が言つてた結果論つことなのか。
いや、違うよな。

これは必然なんだ。

いつの間にか床に落ちていた携帯を拾い上げる。

宏美から4回も着信があった。

俺はまた、恐竜と言われるのだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6312c/>

二択

2011年1月27日15時13分発行